

れております。私たちがびっくりするほど早くこうだと思っただら補正に上がってくるんですが、こういう問題は即対応してもらえないのか、いつごろから実質に進めていくかと考えているのか。

A 子どもの病気は子育ての大きな不安の一つです。加西市の乳幼児医療制度は、乳幼児が健康を保ち健やかに成長できるように、子育て世代の経済的負担の軽減を図り、乳幼児の保健の向上と福祉の増進を図るために財政再建を進めながら、平成17年7月から医療費の無料化を3歳未満まで拡充しました。

乳幼児医療体制は、全国一律ではないため対象年齢や所得制限など自治体によって内容に格差があります。乳幼児受診対策としてのさらなる拡充は、少子化対策の一貫として子育て支援に関して、総合的かつ計画的に推進が必要と考えます。平成18年度の財政状況を勘案しながら、この拡充について市負担額の財源確保を視野に入れ、来年度予算に反映できるよう検討をして

いきたい。人口増のために少子化対策にいろいろ取り組みたいが、今回の補正には間に合いませんでした。

人口増のためには1子、2子だけでなく、第3子を産んでもらうこそ人口増は図れると認識しています。例えば、第3子の保育料、あるいは医療費を無料にするような方策も考えたいと思います。

新構想学校案

Q 新構想案で一番の特色は、ゼロ歳から15

歳までの一貫教育。これが今までの教育とどう変わるのか。中学校4年制を言われるが、今までの3年制のどこが悪く、4年制のどこがいいのか。25人学級の提案は、市の単費も必要だが、こういう思い切った少人数教育を決定された中身は何か。理想の学校の検討はいいが、現実の学校の校舎建設はどうするのか。この案はあくまでもたたき台であって、おおいに変わりうるものなのか。

A 無修正でいくことはありません。大いに

考えていただいて、後は市民サイドでもいろんな対案、反論も含めて出していただきながら、まとめていきたい。

せっかく新しい学校をつくるのだから、ゼロから15歳まで連続しておけばお互いが成長を実感できる。3歳児は15歳のやや大人を間近に見ることができると、逆に15歳はまさに3歳児やゼロ歳児を見ることができると。そういう育ちを学校がどう確保していくかはやりがいのあるテーマです。

5歳児入学とか中学4年制はものすごく難しいと思いますが、言い出す意義、価値はあります。もし学校教育法上、今の文科省の考えでは絶対無理だとしても、小学校6年生の課程を、中一っぽい構成で、全体のカリキュラムを構成することは許されると思います。25人学級は物すごく難しいが、これも言い方の問題で、学級の弾力化を考えています。25人での授業もあるし、50人、10人での授業もある、そういう組み合わせできないか、それがある教科の一部あるいは全

てですのか、その辺も考えていくべきことです。

要は、制約条件があるからだめという発想ではなく、こういうものをつくりたいという考え方でスタートする、それが学校づくりだと考えます。

市民会館の運営

Q 市民のために自主事業をやることはいい

が、複数の議員も関わって同じような企画・運営で、平成13年度85万8千円、15年度112万円、18年183万円と赤字が続いている。たくさん市民に見てもらうには、1年に1回か2回、春と秋なら春と秋に1回、市民会館に吉本新喜劇や歌舞伎など立派な市民が喜ぶ方を呼んで、そこで昼・夜の部に分けて、年に4回ほど全市民が市民会館に集まってきて楽しむ笑顔で見に来て、笑顔で帰る、こういう公演をされた方がいいと思う。

市民の税金であるお金をこれだけ使うなら、市民会館をいっばいにかけるように、また市民に還元する意味でも、無

料ですることではできないか。市長の見解をお願いします。

A 市民会館の自主事業については、興業のノ

ウハウもないのに素人が本来業務でもないところまで、自分たちの管理限界を超えて手を広げ過ぎているくらいは前から指摘しています。原則、収支均衡になるように、あるいは赤字でも最低限で済むように、チェックしながらやるようにと指示していますが、今回そういう赤字が出たのは大変残念です。興行は半分の席で収支がとれるような金額で招くものだと思います。その後、市、あるいは市が関連してやる場合は、ギャラの金額設定から見直していきたいと思えます。市民全員が無料で参加できるようにイベントは私も前から言っていることで、いろんな事業をばらばらに、それぞれの担当者がやるのではなく、1年に回数を定めてしっかりとしたものやる方が、市民の共同体意識が高まるのではないかと認識しています。